

「全国流通」

記入者：ラプタハイブン



料理長やましんの吉報で良い週明けを迎えた。出産立会いは感動的で自分も2度経験させてもらった。出産後は赤子がすやすや眠る横で男性は職を失う。お遣いや雑用があればまだ良いが、ただただ赤子の寝顔を見て「何かしなければいけない感じ」と戦うこと以外に、できることはないかと考えてしまう。そこで自分はマンガ本と戦うことに決めた。「北斗の拳」や「ワンピース」などの長編は、充実感と休日感を味わうのにもってこいのボリュームだった。結果がだらけた休日の延長であったとしても、家族や来客、場合によっては妻にとっても、空気より薄い存在なのだから、来客に愛想良くし、何かあったときに動ける体制であれば、それで職を得ているといえる…と信じている。

8月4日にはアルバム「GOLDTOWN」が晴れてリリースとなる。自分達でもこれ以上のものを作れないほどの傑作となった。コロナ渦でライブ活動ができない中だが、自分達の未来と地元の期待を乗せて、作品が全国流通することになる。地元で生まれた「KAKEHAN」(カケハン)という音楽は、少し特殊な手法で作る。「KAKEHANはきっと誰かは聞いているし、見つけてもらったときに絶対火がつく」と言っていたのは寛治。その通りだと思う。実際1作目の時に大きく反応してくれた人達が居た。「耳の早い人達」というのは実在していて、名前やキャリアにとらわれずに貪欲に音楽を探している。本当にすごいと思う。今作も都会に潜む「耳の早い人達」に届くことを願っている。

学生のと看住んでいたアパートのそばに、個人でハマー2(外車)を所有している町工場があった。大きいとはいえない区画割りで、おそらく自宅兼用である土地に工場をかまえ、きつつきのスペースにハマー2を停めていた。一体どうやってやりくりしているのか謎だったが、きっと自営の中小企業の中にはめっちゃ儲けている企業とかあるんだろうなと思った。

ライブの練習をしているとき、「僕達はライブをして客と楽しむ時は「サービス業」であって、新しい音楽をつくっている時は「製造業」やな」という話になったことがある。寛治が、「自分達は名だたる大企業ではないけれど、地方の知らない中小企業でもiphoneの部品を作っているような中小企業がある。そういう地方の強い中小企業のような存在になればかっこいいよな」と言った。チャクラダイナミクスはあなたにとって最強の中小企業になることを目指している。

実際、自分達で制作のほぼ全ての過程をこなせるのはチャクラダイナミクスのセールスポイントで、今作も製品の印刷製造と、流通手配以外は全て自分達でやった。作詞作曲、ミックスマスタリング、デザイン、プロモーションビデオの撮影までグループの中で完結できるのは心地良い。考えたものを生しぼりで作品にできるし、気の知れた連中との作業は世界観のブレもない。一つ一つの作業が楽しかった。

「GOLDTOWN」が地方の自主制作盤であったとしても、CDである以上、店頭にも並べてもらえさえすれば、他の大企業の製品と同じ土俵で戦うことができる。全国流通こそが僕達を全国の土俵に立たせてくれるし、販売棚での勝負が今後の道を拓く鍵なのだと信じている。